

# 校長室だより



気仙沼市立九条小学校  
令和4年11月7日  
NO.12  
校長 白倉 彩枝子

かしこく やさしく たくましく



## 災害時「心の緊急スイッチ」ON

4連休が明けて、子供たちも元気いっぱいに登校してきました。

今年の秋は、寒暖差が大きかったせいか、紅葉がいつもより色鮮やかです。この休みを利用して、「紅葉狩り」を楽しんだ御家庭もあったことでしょう。

そんな秋の楽しみを妨げるように、3日（木）早朝、Jアラートのけたたましい音が鳴り響きました。祝日の早朝ということもあり、子供たちは在宅だったと思いますが、平日なら登校途中…私も、校門前で交通指導の最中です。（もしも、平日の早朝にJアラートが発信されたら…）と考えると、とても不安になりました。

そこで、改めて九条小学校『学校防災マニュアル』を確認しました。本校では、Jアラート対応として、「学校在校時」「登下校中」「在宅時」と場合を分けて、避難の方法が明記されています。Jアラート対応で、一番大切なことは、建物の中に避難することです。近くに建物がない場合は、「物陰に身を隠す」「くぼみ等に身を伏せる」「ダンゴムシのポーズをとる」などの対処が必要です。子供が、学校や家庭にいる時は、大人の指示もあり、慌てずに対応することが予想されます。しかし、子供が一人にいる時、落ち着いて対応することができるのでしょうか。日頃から、自分で考え、判断し、行動する態度を、意識的に身に付けていくことが必要だと実感しました。学校での継続的な指導はもちろん、御家庭でも、「こんな時、どうする?」と、様々な場面を想定して、話し合っただけであればと思います。

連休中4日（金）には、気仙沼高校において、「防災教育に係る活動公開」と「九条小・条南中・気高避難所周辺地域防災委員会」が開催されました。活動公開では、授業と避難所設営等の対応訓練が行われました。その中で、社会科「災害時の心理」の資料に、目が留まりました。それは、災害時に適切な避難行動がとれない心理について、分析された内容でした。災害時、人には次のような心理が働くそうです。

- 「どうせ起こるはずがない」と思い込むこと。
- 「みんながそうしているから」と自分で考えず、みんなと同じ行動をとること。
- 「自分だけは大丈夫」と根拠のない自信をもつこと。
- 「またか…」と思い、行動しないこと。

みなさんは、いかがですか？私は、自分と重なることもあり反省させられました。人の陥りやすい心理をよく理解しながら、災害時には、**心の緊急スイッチ**を入れて命を守っていきたいものです。九条小学校区内でも、自主防災組織を立ち上げ、地域住民の連携・協働を推進している地区があります。11月26日（土）には、九条四反田地区防災組織による防災訓練も予定されています。このような機会を大いに生かして、子供たちにも進んで参加してほしいと思います。

最後に、委員のお一人の方が語った言葉を紹介します。

…**防災は、人間の総合的な力を育みます。他者を大切にする思いやりの心や、自分の価値を地域や社会でどのように生かすか考える力が育ち、自己肯定感が高まっていきます。**…

防災教育は、「自分の命」や「みんなの命」を大切にする教育です。日常的・継続的な防災教育の大切さを、改めて考えさせられた4連休中の二つの出来事でした。

